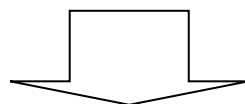


	育てたい力	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順序に気を付けて物語文や説明文を読むこと。</li> <li>・話を集中して聞き、内容を把握すること。</li> <li>・自分の考えや経験したことを、作文や新聞で相手に伝えること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読むことの学習では、教科書の文を拡大したり、電子黒板の視覚的教材を活用したりする。また、家庭学習等で音読に取り組む。昔話や早口言葉、遊び歌を音読の題材とし、楽しんで読めるようにする。</li> <li>・聞くことについては、インタビューしたことを新聞にする活動を通じ、聞くことに必要感をもたせ、集中して聞けるようにする。</li> <li>・書くことについては、5W1Hメモを活用して、作文にまとめていく。タブレットを活用し、書きの困難さを軽減する。</li> </ul>
生活単元	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学的学習には、実験や体験型学習を行い、日常生活に活かすこと。</li> <li>・社会的学習には、体験学習を通じ、産業や歴史に親しみをもつこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学的学習では、柳の森の探検や、理科の分野を活用したおもちゃ作り、実験などの体験学習を充実させ、身の回りの事象のしくみに気付けるようにする。</li> <li>・社会的学習では、自分で資料を用いて調べたり、物づくりを体験したりし、基本的な知識や人々の思いを知る。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物を用い、計算問題に取り組むこと。</li> <li>・時計を読み、時間の感覚をつかむこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロック等の半具体物を操作して、四則計算や筆算、分数や小数の計算に取り組ませていく。</li> <li>・時計の模型を用いて繰り返しゲームを行い、時間を時間の感覚をつかませる。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しを立てイメージをもてるようにすること。</li> <li>・安全に気を付けて作業すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットの使用や教員の手本等でイメージをもたせ見通しを立てて活動を行う。けがをしないよう活動前には道具の使い方を確認し、安全に活動できるようにする。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく音楽に関わり、協働して音楽活動を楽しむこと。</li> <li>・演奏や歌唱の技能を身に付けること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員と一緒に歌い、曲の良さや楽しさに気付かせる。</li> <li>・楽譜と楽器に貼る運指のための色シールを対応させ、視覚的な支援をする。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを理解して運動を楽しむこと。</li> <li>・基礎体力を養うこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の能力に合わせて役割を決めたり、ルールを単純化したりすることで、見通しをもって活動に参加し、達成感をもたせる。</li> <li>・OTを連携し、身体の使い方を知る。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や相手の気持ちや考え合うこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像教材を用いることで場面や状況の理解を促す。</li> <li>・役割演技を行い、登場人物の気持ちを想像し、自分の状況に置き換えて考えられるようにする。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に気を付けながら調理実習や被服実習を行うこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動前に注意事項を伝え、けがのないように活動させる。</li> <li>・学習内容を家庭に伝え、日常生活に活かせるようにする。</li> </ul>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく外国語に親しみ、単語やフレーズを発音すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し英語の歌を歌うことで、自然と英単語が発音できるようにする。</li> </ul>
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を活用して調べ、発表すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員と話し合ったり、選択肢の中から選んだりし、調べたいものを決める。</li> <li>・タブレットや本を活用し、視覚的支援を行う。</li> </ul>
学級経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流学級において多様な人と関わること。</li> <li>・自分を知り、自己肯定感を高めること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達とたくさんの関わりがもてるよう、教員が距離感で見守っていく。良い行いを積極的に褒め、自信をもって学校生活を過ごせるようにする。</li> </ul>



	成果○ と 課題▼
国語	○5W1H メモを繰り返し活用することで、書くことへの苦手意識が減り、一人で作文や絵日記を書くことができるようになってきた。 ▼自分の気持ちや考えを、言葉で表現することが難しい児童がいるため、読み聞かせをしたり、ICT を活用したりしてたくさんの言葉にふれる機会を増やしていく。
生活単元	○理科的学習では、野菜の栽培や実験など体験的な学習を充実させることで、自然の変化や身の回りの事象について知る経験を増やすことができた。 ○社会的学習では、ICT を活用し、地方の自然について児童自ら調べようとする姿が見られた。 ▼児童の興味に偏りが見られることがあったため、児童の実態に応じて学習内容を考える必要がある。
算数	○半具体物を操作させながら計算問題に取り組みさせることで、計算の意味理解を促すことができた。 ▼計算の仕方を忘れてしまうなど、定着が不十分な児童が見られたため、長期的に繰り返し練習問題に取り組みさせていく。
図工	○教員との対話を通じ、自分が作りたいものを自由に表現する姿が見られた。 ▼抽象的なイメージをもつことが難しい様子が見られたので、イメージを膨らませながら学習に取り組むようにしていく
音楽	○教員と一緒に歌うことで、声の大きさや音程に意識しながら歌う様子が見られた。 ○楽器を演奏している様子を撮影することで、上達したいという意欲が高まった。 ▼リコーダーを吹くときの息の量や指使いに苦手意識をもつ児童がいた。視覚的教材を用いながら練習できるようにしていく。
体育	○児童の能力に合わせて、練習の場を設定したことで、児童が見通しをもって伸び伸びと練習する様子が見られた。 ▼運動への苦手意識をもつ姿が見られた。中休みや昼休みを活用し、遊びの中から運動の楽しさを見出せるようにする。
道徳	○NHK for school「でこぼこぼん」を見ながら、自分自身の性格や好みについて振り返り、将来の理想の姿を考える様子が見られた。 ▼相手の気持ちを深く考えることが難しい児童がいた。役割演技を行ったり、日々の生活と結び付けたりしながら自分の状況に置き換えて考えられるようにしたい。
家庭	○活動前に注意事項を伝えることで、けがなく安全に活動することができた。 ○教員が適度な距離感で支援することで、友達と協力しながら取り組む様子が見られた。 ▼授業で習ったことを日常生活に生かそうとする姿がほとんど見られなかったため、家庭と連携しながら児童が必要感をもてるようにする。
外国語	○英語の歌を繰り返し聴くことで、すすんで英単語を覚えようとしていた。 ○ゲームを簡略化することで、英語を楽しむ姿が見られた。 ▼発表やコミュニケーションを恥ずかしがってしまう児童が見られた。スモールステップで自信をもたせていく。
総合	○繰り返し発表練習を行うことで、魚沼宿泊学習で学んだことについて発表することができた。 ○児童の興味があるものと関連させながら新聞づくりを行うことで、意欲をもって活動することができた。 ▼自ら調べることが難しい児童が見られるため、スモールステップで取り組ませていく。
学級経営	○児童が自分のやりたいことや挑戦してみたいことに積極的に取り組む姿が見られた。 ○自分で選択したり判断したりする姿が見られた。 ▼できるようになったことの定着を図り、さらに習慣化できるよう、今後も支援していく必要がある。